

科目名	作業科学演習			ナンバリング	ASF242	授業形態	演習
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	佐々木充直	担当教員	北山 淳				

授業の概要	作業療法的手段として用いられる陶芸、革細工、籐細工、マクラメなどの創作的活動（マイナークラフト）およびレクリエーションゲーム、音楽などの活動を実際に経験（創作技術等の実技・実習）することで、治療的視点を考慮しながら対象者に指導できる程度まで学修する。				
到達目標	1 各種作業活動の手順や工程を理解する。 2 使用する道具の特性を理解する。 3 使用する材料の特性を理解する。 4 各種作業活動の作業分析と治療的応用の基礎を理解する。				
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な予備知識など）	各作業活動の作業分析を行う際には、どのような機能が必要なのかを考える必要がある。また、各作業を遂行するために必要な能力を考え、対象者に合わせた作業活動の選択ができるようになる必要がある。作業が持つ意味と目的を考えながら体験に取り組む。日常的に行っている作業にも目を向けて考えていく想像力を持ってください。動きやすい服装で参加してください。				
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部作業療法学科ディプロマポリシー】				
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。		
	○	2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。		
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。		
	○	4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。		

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①作品を完成できる。 ②作業活動の過程を説明できる。 ③各作業種目を確実に修得できる。 ④作業分析を行うために必要な知識を身につける。	①作業活動について他人に説明し実施させることができる。 ②作業活動の特徴を理解し、治療的意義について説明できる。 ③作業活動を分析し対象者に合わせて選択できる。 ④作業活動の目的を説明することができる。 ⑤グループ学習で行うディスカッションを通してグループマネジメントができる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験（中間・期末試験）							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	●		●	●	●		80%
授業態度・授業への参加			●	●			20%

課題、評価のフィードバック	manabaによるフィードバックを行う
---------------	---------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション	作業の意味・目的	
	第2回	紙細工(画用紙)①	片手でできる紙細工の作業工程、道具の操作方法の説明	
	第3回	紙細工(画用紙)②	片手でできる紙細工の作品制作、作業分析	
	第4回	紙細工(ちぎり絵)①	両手を使用する紙細工の作業工程、道具の操作方法の説明	
	第5回	紙細工(ちぎり絵)②	両手を使用する紙細工の作品制作、作業分析	
	第6回	エコクラフト(ペン立て)①	廃材を再利用したエコクラフトの作業工程、道具の操作方法の説明	各自1リットルサイズの牛乳パックを 2-3本程度用意してください
	第7回	エコクラフト(ペン立て)②	廃材を利用したエコクラフトの作品制作、作業分析	
	第8回	アイスティック①	アイスティックの作業工程、道具の操作方法の説明	
	第9回	アイスティック②	アイスティックの作品制作、作業分析	
	第10回	マクラメ①	マクラメの作業工程、道具の操作方法の説明	
	第11回	マクラメ②	マクラメの作品制作、作業分析	
	第12回	アンデルセン①	アンデルセンの作業工程、道具の操作方法の説明	チラシや広告などを30枚程度用意してください
	第13回	アンデルセン②	アンデルセンの作品制作、作業分析	
	第14回	音楽	小集団、大集団による音楽活動	
	第15回	レクリエーション	廃材を使用したレクリエーション	新聞を2-3日分用意してください
	試験	完成した作品とレポート課題をルーブリック評価を用いて評価する。		
授業の進め方		作品制作については2回で一つの作業活動とする。小集団で意見交換しながら作品の作成を行う。		
授業外学習の指示		作品作成については初回授業で配布された資料を次回までに確認しておくこと。また、教科書の該当箇所を読み概要を理解しておく。 (授業外学習時間: 毎週 240 分)		

教科書	作業-その治療的応用(第2版)、日本作業療法士協会編集、協同医書出版社、3500円(税別) ISBN 978-4-7639-2107-9
参考書	指定なし。授業内で配付する資料を参考にすること。
参考URLなど	なし
その他	なし